アセスメント研究会

本研究会では、フード・コミュニケーション・プロジェクト（以下 FCP とする）の基本的な考え方に基づき、横浜商科大学地域産業研究所（小林二三夫所長）の主催により情報共有ネットワーク参加の皆様に参加を呼びかけられます。「協働の着眼点」等を活用したアセスメント全般（セルフ、二者間、第三者）に関する個々の活動を共有し、広く普及させるための意見交換が行われるとのことです。

具体的には、「協働の着眼点」や、それを用いた評価軸等を活用した、アセスメント全般（セルフ、二者間、第三者）に関する個々の活動をご報告いただき情報を共有するとともに、個々の活動のスムーズな立ち上がり、評価軸の共有化の可能性、アセスメント全般の認知度向上等に関する、ご提案や課題解決に向けた意見交換を行うとのことです。

併せて、「協働の着眼点」を活用した食品事業者の取組事例に関する情報を広くご提供いただき、意見交換を行うとともに、「協働の着眼点」をより良いものに見直すための情報の提供、改善に向けた提案をしていただきます。

回	開催日	議事次第
第 3 回	平成 22 年 12 月 10 日（金）	1. 開会挨拶 2. 農林水産省挨拶 3. 活動報告とこれまでの意見交換の概要 4. 今後の展開
第 2 回	平成 22 年 10 月 8 日(金)	1. 開会挨拶 2. 農林水産省挨拶 3. 事例報告 4. 意見交換
第 1 回	平成 22 年 7 月 2 日(金)	1. 平成 22 年度「アセスメント研究会」概要説明 2. 「協働の着眼点」を活用した個々の アセスメント活動に関する情報共有と課題提案 3. 質疑応答・意見交換

平成２２年度　ＦＣＰ
アセスメント研究会について

平成２２年６月

横浜商科大学　地域産業研究所

農林水産省
フード・コミュニケーション・プロジェクトチーム

研究会の目的

○研究会主催　　：横浜商科大学　地域産業研究所

研究会サポート：農林水産省　フード・コミュニケーション・プロジェクト（FCP）事務局

○　フード・コミュニケーション・プロジェクト（以下FCPとする）の基本的な考え方に基づき、「協働の着眼点」等を活用したアセスメント全般（セルフ、二者間、第三者）に関する個々の活動の情報を共有し、広く普及させるための意見交換を行います。

本研究会では、具体的に「協働の着眼点」や、それを用いた評価軸等を活用した、アセスメント全般（セルフ、二者間、第三者）に関する個々の活動をご報告いただき情報を共有するとともに、個々の活動のスムースな立ち上がり、評価軸の共有化の可能性、アセスメント全般の認知度向上等に関する、ご提案や課題解決に向けた意見交換を行います。

併せて、「協働の着眼点」を活用した食品事業者の取組事例に関する情報を広くご提供いただき、意見交換を行うとともに、「協働の着眼点」をより良いものに見直すための情報の提供、改善に向けた提案をしていただきます。

研究会の進め方

○　研究会：年間3回、全体報告会2回実施を予定しています。内容は、下記の通り予定しています。

・【第1回　研究会】　：7月2日（金）１４：００～１６：００　（詳細は後日ご案内）

平成22年度アセスメント研究会の進め方と、「協働の着眼点」を活用した個々のアセスメント活動の現状報告及び今後の活用に関する意見交換等

・【第2回　研究会】　：１０月実施予定（後日ご案内）

研究会参加メンバーのアセスメント活動に関する現状の情報共有及び、アセスメント全般の認知度向上のための課題に関する意見交換等

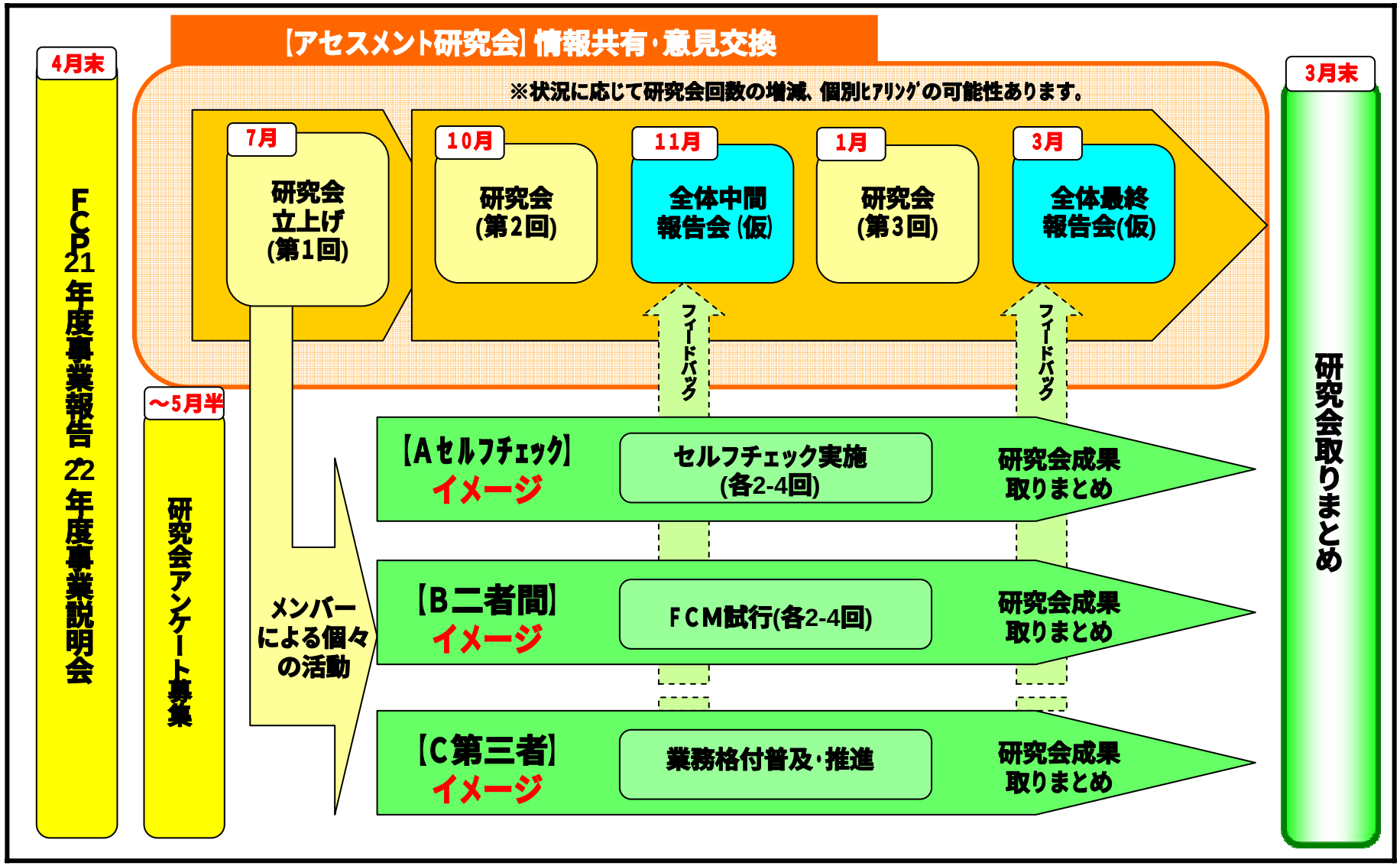
・【全体中間報告会】：東京大学にて１１月実施予定（後日ご案内）

・【第3回　研究会】　：1月実施予定（後日ご案内）

研究会の取りまとめ及び、「協働の着眼点」の活用、項目等に関する意見交換等

・【全体成果報告会】：東京大学にて3月実施予定（後日ご案内）

アセスメント研究会のスケジュール（案）



第一回　『アセスメント研究会』　議事録

1.　日　時　　平成 22 年 7 月 2 日（金）14:00-16:00
2.　場　所　　中央合同庁舎 4 号館　1220～1221 会議室
3.　出席者　　１９名

＜議事次第＞

1. 開会挨拶（横浜商科大学　地域産業研究所　小林　二三夫所長）
2. 農林水産省挨拶（農林水産省　ＦＣＰチームリーダー　神井調査官）
3. 研究会の進め方（小林所長）
4. 自己紹介
5. 意見交換
   - ・今年度の具体的な活動や課題に関して
   - ・「協働の着眼点」を活用したアセスメント全般の認知度向上等に関して
6. 今後のスケジュールの確認

配布資料

資料１　H22 年度ＦＣＰ活動展開と研究会概要について
資料２　第一回研究会説明資料
資料３　H21 年度実行可能性調査より
「食の信頼確保のための成熟度評価事業」概要（㈱ｱｲ･ｴｽ･ﾚｰﾃｨﾝｸﾞ）
資料４　「協働の着眼点」樹形図（業種別～製造）

＜議事内容＞

1. 挨拶

(1)　小林二三夫所長

横浜商科大学、地域産業研究所及び研究員の紹介、ＦＣＰ参加の経緯や昨年度のＦＣＰ活動報告として、同研究所が取りまとめた「フード・コミュニケーション（FC）・企業行動マネジメント規格」（以下、「ＦＣＭ」という）を紹介いたしました。また、本研究会は、「協働の着眼点」を活用したアセスメント全般に係る個々の活動による情報を共有し、食への信頼向上に取り組む企業のアセスメント全般に関する認知度向上等を目的として設立されたものであることもご説明しました。

(2)　神井弘之チームリーダー

ＦＣＰ全体の説明から２０年度及び２１年度の活動報告並びに今年度の研究会の説明がありました。

2. 研究会の進め方（小林所長）

小林所長より本研究会の目的や進め方について説明いたしました。

まず、本研究会の運営としては、ＦＣＰの基本的な考え方に基づき、「協働の着眼点」等を活用したアセスメント全般（セルフ、二者間、第三者）に関する個々の活動の情報を共有し、広く普及させるための意見交換の場とすること。また、「協働の着眼点」をより良いものに見直すための情報の提供、改善に向けた提案をしていただく場とすること。研究会の進め方としては、年３回の研究会を開催し、年２回の全体報

告会での報告を予定している。加えて、ＦＣＭを横浜商科大学ホームページにて公開し、幅広く普及していくこととしている。

3.　自己紹介

研究会参加メンバーから自己紹介として、アセスメントに関する個々の活動状況を報告いただくとともに、今年度の取組に関しての紹介がありました。

具体的には、

- パート・アルバイト従業員向けに、「協働の着眼点」を活用して、業務に必要な知識を分かりやすく説明し、浸透させることを目的とした教育ツールを開発した。今年度は、そのツールを活用した講習会を通じてＦＣＰの普及に努めるとともに、教育ツールの中国語版や英語版の作成を検討している。
- 「『協働の着眼点』を活用したセルフアセスメントシートの開発と運用」を手掛け、食品工場従業員の通信教育手法を開発して教材を作成した。
  今年度は、具体的なビジネスとして、「協働の着眼点」の１６項目における小売業向けの、衛生管理やクレーム対応のあり方などのルール作り、衛生管理基準の作成を検討している。
- ＦＣＭ作成のお手伝いをした。今年度は、取引先やグループ会社を含め、ＦＣＭを活用し、「協働の着眼点」を浸透、普及させていけるような活動をしていきたい。
- ＦＣＰにおける食の信頼の向上、協働という観点から、取引先様との間では、「取引」ではなく「取組」を行っていることを意識して、具体的な活動に取り組みたい。
- 金融機関においても、財務データのみでの企業評価には限界を感じている。本研究会における様々なアセスメントに関する活動を、新たな企業評価のツールに活かしたい。
- ＦＣＰの理念に賛同している。ＦＣＰは食の安全・安心に対する取組であり、保険会社としてもリスクに対してどう取り組むか、保険業という立場から本研究会に貢献したいと考えている。
- 「協働の着眼点」の取組を第三者に見せる手段の構築こそがＦＣＰの普及が進展するという認識のうえで、本研究会を盛り上げていきたい。様々なセミナー等においても、ＦＣＰの内容を盛り込み、話させていただいている。
- 食の安全・安心を根付かせることが重要であり、本研究会を通じて食の安全・安心を確保することに努めていきたい。
- ＦＣＰには設立時から参加させていただいており、今年度は、すべての研究会に参加して行きたい。また、当社のＦＣＰへの参加の動機は３点ある。①社内の食品事業に関わっている部門における意識の統一、②グループ内企業におけるガバナンスの強化、③様々な取引先との同じ目線の共有、そうしたことに留意しながら、食の安全・安心の向上に協力したいと考えている。

4.　意見交換

本研究会主催の横浜商科大学地域産業研究所、小林所長より、研究会参加者の皆様に、ご質問、ご意見等を求めました。

具体的には、

質問：　銀行における与信のあり方について、食品事業者の業務に関する評価や動産担保等の観点から、アセスメントの活用方法がないか。

意見：　現状、動産担保においても実施上の課題がある。例えば、モノの流れや取引における実態を把握し切れていないことである。しかしながら、年一回の財務データのみによる与信判断に限界を感じていることも確かであり、業務内容や経営者の姿勢等は、大切な判断材料であり、今後の主流ともなりえると考えている。現時点においては、ＦＣＰの「協働の着眼点」を営業担当における、食品事業者を見ていく上での教育ツールとしての活用を考えている。

質問：　ＰＬ保険やリコール保険にも、ＦＣＰにおけるアセスメントの活用方法がないものか。

意見：　保険化するという観点からすると、リスクの見える化が必要になってくる。そうした点から、今後の活用に関して本研究会を通じて考えて行きたい。

食の信頼確保のための成熟度評価事業に関するご意見:

昨年度のＦＣＰ実行可能性調査の「食の信頼確保のための成熟度評価事業」における業務格付けを実際に取得した。社内における現状の自己点検、客観的な判断材料としては役に立つが、取引先にはまだ認知されていないため、現状、活用に限界がある。今後の課題として、こうしたアセスメント全般に関する認知度の向上が重要であると感じている。

最後に、神井弘之チームリーダーから、様々な取組をアセスメントという言葉でひとくくりにするのは困難かもしれないが、幅広い観点で意見を集約していきたい旨、述べさせていただきました。

5.　今後のスケジュールの確認

次回は、１０月を予定しているが、それまでの期間においても事務局を通じて情報交換を行いたい旨述べて研究会を終了しました。